

平成24年第8回横手市議会12月定例会 一 般 質 問 要 旨

■ 一般質問の日程

平成24年12月3日（月）～5日（水） 本会議

※午前10時、開会の予定です。

■ 一般質問の順序

期日	順番	議席番号	議 員 名	頁
3日	1	9番	小野正伸 議員	1
	2	3番	高橋聖悟 議員	2
	3	22番	寿松木 孝 議員	3
	4	7番	立身万千子 議員	4
	5	27番	奥山 豊 議員	5
4日	6	12番	高橋 大 議員	7
	7	10番	遠藤忠裕 議員	8
	8	5番	青山 豊 議員	9
	9	18番	齋藤光司 議員	10
5日	10	4番	土田百合子 議員	12
	11	16番	佐々木 誠 議員	14
	12	6番	齊藤 勇 議員	15
	13	8番	鈴木勝雄 議員	16

1. 【9番 小野 正伸 議員】

1. 「スポーツ立市よこて」の実現に向けて

- 1) スポーツを通じたまちづくりのために、現在よりもっと踏み込んだ全庁横断的な取り組みができないか。

2. 統合後の小中学校の有効な利活用について

- 1) 学校統合後は地域の要望がなければ「即解体」との方針だが、地域の方々の理解が得られるようなルールづくりが担当部署内で徹底されているのか。

3. 地域要望について

- 1) スクールバスの冬期間の弾力的運行を望む。
- 2) 横手地域統合小学校のスポーツ環境整備について。
- 3) 平安の風わたる公園（立馬郊）のトイレ改修について。

2. 【3番 高橋 聖悟 議員】

1. デジタルアーカイブの構築を

- 1) 郷土資料や地域の文化財をデジタル化して保存、管理、公開（デジタルアーカイブ）できれば、観光の振興等にも寄与すると思われるので、デジタルアーカイブの構築を提案する。

2. 企業誘致について

- 1) 市長のみならず、職員の人脈も活用して企業誘致をすべきだと思うが。

3. 小学生の生活習慣病（小児生活習慣病）について

- 1) その取り組みについて伺う。

4. 学校給食について

- 1) 地場産食材の使用拡大についてはどのような形で進めていくのか。以前より計画的に生産、納入できる体制や手法を構築するとあるが、どのような考え方なのか伺う。

3. 【22番 寿松木 孝 議員】

1. 空校舎の再利用を

統合により空校舎が発生しているが、その再利用の可能性について伺う。

- 1) 基本的に空校舎はその地域で使い方を考えるとの方針のようだが、現実的には維持管理の財源の問題などから、地域での維持は不可能と感じる。市としての一定の方向性を示すべきと考えるが。
- 2) 様々な再利用が考えられると思うが、農業施設としての再利用の可能性は。
- 3) 大雄中校舎を実験農場と連携させ実証実験する検討を。

2. 消防施設の統合について

旧市町村単位で配置されている消防施設の再配置計画は。

- 1) 現在各分署では、救急車両の乗車人数を4名体制としたことから消防車両との同時出動が出来ない状況となっているが、この状況の改善も併せ、各分署の再整備を急ぐべきと考えるが。
- 2) 山内分署は地域局の建て替え時に併設させる計画となっているが、今後計画される各地域局の建て替えとの関係は。また、市全体における消防施設の具体的な配備の内容は。

3. 指定管理施設について

市の指定管理している施設管理のあり方について。

- 1) 市が指定管理している様々な施設の中で、福祉関連の施設については、無償譲渡も視野に入れた一定の方向性が示されたが、その譲渡先の選定方法など不透明な部分も多いと感じる。今後の施設管理のあり方についての当局の考えを伺う。
- 2) 現在の指定管理の仕組みでは、その各施設の抱える様々な問題や経営内容が見えにくく感じる。適正管理のためにも現状の体制を改善していくべきと考えるが。

4. 【7番 立身 万千子 議員】

1. 「即時原発ゼロ」を実現するために横手市ができることは何か。

1) 再生可能な自然エネルギーについて。

① 横手市における取り組みの状況は。

② バイオマスタウン費の位置づけは。

③ 横手市の風土を最大限に活かした雪・小水力・地中熱といったエネルギーの利活用策は。

2. 国民文化祭について

1) 国内最大級の文化祭典を二年後に開催するにあたり、地域活性化の大きなチャンスととらえるべく、市長の構想を質問する。

① 全市民への周知について。

② 8つの事業を成功させるための体制づくり、実行委員会を中心とした受け入れ体制など。

③ 滞在型観光の具体策。

④ 学校教育における位置づけ。

5. 【27番 奥山 豊 議員】

1. 景観条例について

- 1) 「山と川のある景観のまちづくり条例」で、羽黒町・上内町が景観重点地区として景観が守られ、旧条例の果たした役割は大きい。新しい条例を市全域に広げることになると住む人の高齢化、空き家となる不安要素はないか。担い手などどうやって守っていくのか。

また、新条例にある「景観」を広くわかりやすく、どのように市民に浸透させていくのか伺います。

2. 道路行政について

- 1) 維持管理には交付金につかない。今後、縮小財政の中で道路維持をどう進めるか。また、「法定外道路」の整備方策について。
- 2) 地域局の道路維持班が果たす役割が大きい中で、仮称道路管理センター設置構想とは何か。

3. 産業振興について

- 1) 横手市の主産業農業は、これからの生き残りをかけていくべき大切な産業である。今後、横手市農業の振興にどう取り組むのか。また、目指すべき姿はどうあるべきか。
- 2) 産地づくりの上で農薬のドリフト（飛散）チェックが甘いと思う。「指導センター」なるものが必要と考えるがどうか。
- 3) もみ殻の燃料化について。

4. 横手西部地区国営かんがい排水事業について

- 1) 7月の豪雨による教訓は、改修事業を控え、既成概念にとらわれない設計が必要であり、市当局の設計への関与を求めるがいかかがか。
- 2) 事業償還開始は改修事業終了後となる。これまでの慣例の方法でよいか。社会環境変化の中、見直しも必要と考えるがいかかがか。

5. 大雄振興公社について（ゆとりおん大雄）

- 1) 1号館と3号館が指定管理されているが、庁舎の機構改革で2号館の公民館機能が移転となった。1号館、2号館、3号館、全館の一体性が必要と考えるがどうか。

また、「介護福祉施設等を直接管理運営」の考えから譲渡する施策を検討されている。こうした方向を温泉施設等第3セクターへも示していく時期に来ていると考えるがいかがか。

6. 【12番 高橋 大 議員】

1. 通学路の安全確保について

- 1) 地域やPTAなどから寄せられる危険箇所の把握とその対応について伺う。
- 2) 鳥獣被害防止特措法の一部を改正する法律の施行に基づく鳥獣被害対策実施隊員を組織し、狩猟者の減少を防ぐ対策を講じるべきと思うがどうか。
- 3) 秋田市や大仙市では既にESCO事業者を公募型プロポーザル方式により選定し、街路灯のLED化に向け事業を進めている。
当市においても、そのような方法を参考に市内街路灯の全LED化ならびに通学路において、いまだ街路灯が足りないと思われる場所への新設を進めるべきと思うがどうか。

7. 【10番 遠藤 忠裕 議員】

1. 食と農からのまちづくり、発酵文化と食と農のワンダーランドについて

- 1) 市長が考える基本コンセプト、基本構想は。
- 2) 食と農からのまちづくり、発酵文化の具現化の一つか。

2. 合併特例債、過疎債について

- 1) 5年間期間延長への対応、基本的考え。

3. 高齢社会対策大綱について

- 1) 横手市の高齢者の雇用状況について。
- 2) 横手市職員の再任用制度の活用状況について。
- 3) シルバー人材センター事務所統合について。

8. 【5番 青山 豊 議員】

1. コンビニにおける証明書等の交付について

- 1) 住民基本台帳カードを利用して、住民票や印鑑登録証明書等をコンビニで取得できる自治体が増えている。住民サービス向上の面から、そのような仕組みを導入する考えはないか。

2. 市職員の研修・派遣について

- 1) 市職員に対する研修は効果のある内容になっているか。
- 2) 国・県・民間に市職員を派遣する目的と効果について伺う。

3. 「潜在住民」による地域活性化について

「潜在住民」とは、「過去にその地域に住んでいた等のつながりがあり、後に地域を離れたものの、今も変わらず感情的なつながりを保ち続けている人」のことを指す。

- 1) ふるさと会の若手参加促進策について伺う。
- 2) 若手を中心とした潜在住民のネットワーク化を図るべく、首都圏PR担当を置く考えはないか。

4. 観光客に対する「おもてなし」について

- 1) 観光客のリピート増に向けて、市一体となった「おもてなし」の意識をどう作っていくか。

9. 【18番 齋藤 光司 議員】

1. 雇用対策について

- 1) 新市誕生以降の誘致できた企業数と雇用数、また、失った企業数と雇用数を伺う。また、その数と結果をどう分析、対応していくのか。
- 2) 横手第二工業団地が埋まらない理由をどう判断しているか。また、県に対してどのような働きかけをしてきて、今までどのような答えをもらい、市として今後どのような働きかけをしていくのか。
- 3) 市で現在、緊急雇用対策で直接雇用している56人の来年度以降の処遇は。また、そのことに対して、どう市として種々の問題に対応していくのか。
- 4) 農業の6次産業化という言葉だけが独り歩きしているように思う。この後、市として将来プランをどう描こうとしているのか。その為の年度も含めた市としての工程表を伺う。また、市西部地域への多機能型直売所設置構想の進捗状況と建設資金、機能等、中身の部分を伺う。
- 5) 企業振興条例の各種助成について、せっかく当市でつくった雇用が、みすみす他市に籍のある求職者にうばわれることのないよう、当市在住の求職者を優先雇用することを条件としていれることも考える時期に来ているのではないか。雇用の地産地消について考えを伺う。

2. 空き家対策について

- 1) 条例制定後の当市の空き家の推移と見通しを伺う。
- 2) 今冬の雪で倒壊が心配される42ヶ所の分析と、近隣の安全・安心をどうとっていくのか伺う。
- 3) 跡地活用事業の採択の基準を伺う。
- 4) 解体補助金交付要綱の中で、解体業者が市内業者でなければならないことが含まれているが、この補助金の第一の目的は近隣住民の安心・安全が呼び水であり、市の経済対策とは分けて考えるべきだと思うが、考えを伺う。

- 5) どうにもならない空き家で、地域で解決を図っていくときの地域に対しての支援整備がまだ確立していない。必要性も含めた考えを伺う。

3. 温泉施設について

- 1) 介護福祉施設について市としての将来の方向性が示されたが、温泉施設の将来の方向性をいつごろ示すのか伺う。
- 2) 当市の温泉施設を経済施設ととらえているのか、保健施設ととらえているのか、考えを伺う。
- 3) 隣町では地域を輪番制にして高齢者の足を確保しながら保健施設としての有効利用が図られている。当市としても考えてもよい手法と考えるが、考えを伺う。
- 4) 市の各施設とも休憩所で飲食をとるには付随の飲食サービスを受けなければならないシステムになっているが、保健施設として利用するためにはブレーキになっている。これもまた隣町では両立ができています。
公営施設としてこれからの厳寒期のウォームシェア施設としても考えてもよい施設利用の方向性ではないか。考えを伺う。

10. 【4番 土田 百合子 議員】

1. 公文書等の保存管理について

- 1) 平成16年9月議会で、「公文書の保存と公文書館構想について」質問してから8年が経過し4回目の質問となります。今後、条例の制定や専門的職員の養成、全公文書の集約、分類、整理、利用にいたる基準作成と実行、そして最終的には、これらの条件をみたす公文書館について市長の御見解をお伺いいたします。

2. 「生活保護分野における自立支援プログラム」について

厚生常任委員会では、釧路市の生活保護分野における「自立支援プログラム」について視察してまいりました。釧路市の生活保護受給者世帯の特徴は、高齢者世帯が比較的少なく、母子世帯が多いことです。

プログラムは、生活保護から自立し、就職するまでのステップを4系統25メニューで被保護者の状態に応じて設定されております。心身の不調で働けない人や、社会とのつながりをなくした人には、ボランティア活動を通し「やりがい」や、「地域社会とのつながり」を取り戻すことや、働きたいけれども職がない、働いても収入が低くて生活が出来ない人には、資格取得や、職業訓練の支援を行いそれぞれのペースで自立を目指しております。このような先進的な取り組みの中から次の4点について質問いたします。

- 1) 当市の生活保護の状況と取り組みについて。
- 2) 「受給者の自立に向けた職業訓練の充実や働くことの意欲を促すボランティア活動」の提案について。
- 3) きめ細かい相談支援に向けたケースワーカーの増員について。
- 4) 就労収入の一部を積み立て、自立時に活用できる制度の導入について。

3. 脳脊髄液減少症への対応について

- 1) 脳脊髄液減少症は、交通事故やスポーツ外傷等、身体に強い衝撃を受けることにより脳脊髄液が漏れ出す病気です。今年度から武道が必修化されましたが、柔道の授業で投げられても発症の危険性があり、まずは、教育関係者や警察・消防関係者に対して、脳脊髄液減少症の理解を深める講習が必要であります。

さらに、医療関係者に対し、脳脊髄液減少症の診断基準の徹底と専門医による技術講習などの開催で医療技術の向上を図ることが大事だと考えます。当市の考えについてお伺いいたします。

4. バルーン（熱気球）の街づくりの推進について

- 1) 1991年に平鹿町と大雄村が県内の自治体として初めて熱気球を購入し、両町村に熱気球クラブが組織されております。熱気球を媒体とした新しい地域づくりを目指して大会が開催されてきました。

このような取り組みをさらに発展させ、集客力を高め中心市街地の経済に波及させることはできないかお伺いいたします。

5. ジェネリック医薬品カードの効果と推進について

- 1) 増え続ける医療費を削減する切り札としてジェネリック医薬品の活用が推進されております。当市の取り組みと今後の推進について。また、「ジェネリック医薬品差額通知」の実施についての効果は、どれくらい見込めるのでしょうか。

11. 【16番 佐々木 誠 議員】

1. 自治会運営について

- 1) 集落の高齢化と人口減少により将来の自治会運営に不安を感じる。「建物（神社）等の管理や伝統芸能の存続について」市の今後の対応について問う。

2. 除雪体制について

- 1) 地下水を利用した消雪パイプ設置道路の除雪体制について問う。（地下水が利用できなくなった時）

3. 災害発生時の緊急避難所について

- 1) 災害発生時に集落の自治会館が一時緊急避難所となっている。それに対する市の取り組みについて問う。

12. 【6番 齊藤 勇 議員】

1. 果樹再建について

- 1) 二年連続の豪雪災害から再建の道筋は見えてないように思う。当局の事業導入選択と市の独自性や予算と執行との関係と共に、今後の支援策について問う。

2. 農産物加工場建設について

- 1) 価格低迷が続く中、主として加工部分（J A）は比較的堅調に推移していると思われる。当市の地域性、有利性を生かしつつ、一部需要増に応えるべく民間活力を引き出して、加工場の建設または支援策が急務ではないか。併せて、第一義的とすべき生産者価格への支援策の必要について。

13.【8番 鈴木 勝雄 議員】

1. 農業施策等について

- 1) 産地収益力向上プログラムが前期を終えようとしている。この三年間の効果はどうだったか。また、市長はどのようにこの施策を評価しているか。
- 2) 平成27年度までに市の農業産出額を5%以上増加させることを目標にしている。この産地収益力向上推進事業について、これまでの総括の上でどういう具体策を講じる方針か。

2. たばこ税について

- 1) 前議会での答弁は「健康増進法に則り、特に公共施設においては全館禁煙をめざす」ということであった。しかし、現実にたばこが販売され喫煙者が存在する状況では、分煙の手立てが必要と考える。
以上を踏まえ、たばこ税の活用方策を問う。

平成24年12月定例会日程予定【会期17日間】

本会議 午前10時開会予定です・傍聴できます

- ◇11月26日(月) 〔開会〕 議案上程 ほか
- ◆12月 3日(月) 一般質問
- ◆12月 4日(火) 一般質問
- ◆12月 5日(水) 一般質問 ほか
- ◇12月12日(水) 委員長報告 ほか 〔閉会〕

— 傍聴席は横手庁舎の7階です —

委員会

- ◇11月26日(月) 一般会計予算特別委員会
- ◇12月 6日(木) 常任委員会
- ◇12月 7日(金) 常任委員会
- ◇12月12日(水) 一般会計予算特別委員会

横手市

検索

横手市のホームページにあります、

議会のコーナーをクリックしてください。

本会議録画・会議記録・市議会だよりを
いつでもご覧いただけます。

◇ 横手市議会事務局 ◇

〒013-0023 横手市中央町8番2号 (横手市役所 横手庁舎 6階)

TEL : 0182-32-2535 FAX : 0182-32-6539

E-mail : gikai@city.yokote.lg.jp

